

下部消化管内視鏡検査に関する説明・同意書

いりたに内科クリニック

説明医師

【目的】

下部消化管（大腸・直腸・肛門）を内視鏡を通じて観察し、診断や治療を行う検査です。病理診断のために生検（粘膜組織を採取する事）を行うことがあります。検査前には感染防止のため血液検査を致します。

【検査前の注意】

- ①**食事** <検査3日前>海藻類（ひじき・わかめ・昆布・のり等）、キノコ類、食物繊維の多い野菜は大腸内に残りやすく、検査に支障をきたす場合がありますので摂らないでください。
<検査前日>夕食は20時（午後8時）までにすませてください。水分は取っていただいて構いません。
<検査当日>検査終了まで食事は摂らないでください。水、お茶でしたら飲んでいただいて構いません。
- ②**内服薬** 心臓、血圧、脳血管、喘息などの薬は、起床時に通常通り内服してください。
※休薬していただく必要がある場合がありますので、担当医の指示に従ってください。
- ③**クリニックへの交通手段** 検査時に鎮静剤を使用する場合は、検査後に車・バイク・自転車の運転ができませんので、他の交通手段でご来院ください。

【方法】

- ①検査前日に下剤（プルゼニド）を内服してください。普段から下剤を内服されている方は普段通りに下剤を内服されるようにお願いします。検査当日は腸管洗浄剤（モビプレップ）を服用し、腸管内の便を出し切ります。
- ②脱水の予防、また検査中にお薬を投与するための点滴の準備をします。
- ③検査台で左側を下にして横になっていただき、検査開始となります。鎮静剤をご希望の方は使用します。
- ④検査中、腸内に空気を入れたり、腹部の圧迫をおこなったりして挿入・観察していきます。
- ⑤観察が終わると内視鏡を抜き、検査終了です。検査時間は15分から30分程度です。ポリープなどの観察や治療を要する場合は、時間がかかる場合があります。

【検査後の注意】

鎮静剤を使用された方、ポリープ切除などの治療を受けた方は、検査終了後しばらく休んでいただきます。検査終了1時間ほどしてお腹が落ち着き次第、水分・食事を摂ることが可能です。ポリープ切除術を行った場合は、1週間ほど食事・運動等の生活制限が必要になる場合があります。

【偶発症】

内視鏡検査は一般的に広く行われており、比較的安全な検査です。しかし、まれに麻酔、鎮静剤などによるアレルギー反応、出血や消化管穿孔（食道や胃に穴があくこと）などの偶発症を生じることがあります。偶発症の頻度は約0.04%（2500人に1人程度）です。その内、死亡に至る重篤な偶発症は0.0005%（200万人に1人程度）発生しています。万一、偶発症が生じた場合は最善の処置・治療を行います。入院治療や輸血・手術などが必要になる場合があります。

上記説明内容を読み、その必要性と合併症の説明を受け理解・同意された方は下記にサインしてください。

内視鏡検査を（ 希望します ・ 希望しません ）
ポリープ切除術を（ 希望します ・ 希望しません ）
鎮静剤使用を（ 希望します ・ 希望しません ）

令和 年 月 日

患者氏名